

手と手と手

岡山発 国際貢献

会議は英語をベースに同時通訳で進み、「持続可能な社会を築くために」というフレーズが飛び交った。

イタリアのフィレンツェ大学教授パオロ・オリフィスはこう続けた。「大事なものは地球規模のヒューマニズム、つまり多様な文化と民族の人権を尊重する人間性。この人間性を持つ人を育てる戦略が必要なのだ」

昨年十月、岡山県国際交流センター（岡山市奉還町）で開かれた国際会議のテーマは「持続可能な開発のための教育」(ESD=Education for Sustainable Development)。

海外八カ国と日本の大学や国連機関、NGO（非政府機関）などが参加。岡山の中高生の活動発表を交えた議論は

化 点 化

二日間で十二時間を超えた。

サミット

「ESD」はまだなじみの薄い言葉だが、国連は重要視し、二〇〇五年一月、推進キャンペーン「ESDの十年」をスタートさせた。徐々に定着が図られつつあるが、岡山は先進的な取り組みで知られ、国際会議もこれが初めてではない。

国連キャンペーンのきつかけを築いたのは実は日本。〇二年九月のヨハネスブルク・サミットの場において、小泉純一郎首相らが提案したのだが、同じ九月、岡山ではもう一つのサミットが開かれている。

「第九回おかやま国際貢献NGOサミット」。ユネはスコ本部からESD専門官を招き、各国のNGOリー

ダーらが、人権保護、貧困削減、環境保全などの観点から、世界が一体となってESDに取り組むことを誓った。第十回サミット(〇四年一月)では、ESDの推進方策を議論した。

「西のジュネーブ、東の岡山」。岡山のサミットはこのキャッチフレーズを世界へアピールした。第十回で幕を閉じるまで、海外参加者は延べ百七十カ国約三百人になる。

そして、昨年六月、岡山市は国連大学から「ESDの地域拠点(RCCE)」に認定されたのだ。

実践段階

ESDは、持続可能な社会を目指す教育活動であり、環境や平和、福祉など幅広い。岡山では環境や国際理解をめぐる活動が地域やNGOによって始まり、先進地らしく実践段階に入っている。



国際会議でESDの活動を発表する岡山市の中高生ら＝昨年10月

の間、海外のNGOとのネットワークが構築され、ESDでは、国連キャンペーンを先取り。〇四年春には、都道府県で初の岡山県国際貢献条例が制定され、その秋にNPO法人岡山県国際団体協議会(COINN)が発足。国際貢献の地盤は着々と固められた。

「岡山は、今まで以上に責任感を持ってESDを実行していく必要がある。世界の期待を担っている」(敬称略)

ESD先進地の責任